

(様式2) 平成30年度 [自己評価報告書]

学校番号	学校名
2	川崎市立幸高等学校
校長名	増田 実

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
1 広く豊かな心と教養を持ち、自主的精神と態度を身につけた誠実清楚な人間を育成する。 2 礼儀と秩序を尊重し、責任感と協調性を持ち、社会の変化に対応できる力を育成する。 3 確かな学力を身につけ、専門的かつ国際的な視野を持ち、自己の可能性を追求する力を育成する。	◎豊かな心の育成	・人権尊重教育の推進 ・望ましい人間関係の育成 ・規範意識を高める教育活動の推進
	◎確かな学力の育成	・授業力向上に資する研修・研究の推進 ・主体的・協働的な学習の充実 ・ICT機器活用の推進
	◎魅力ある学校づくり	・自立・自己実現を図る教育活動の推進 ・望ましい職業観・勤労観の育成 ・開かれた学校づくりを通じた学校評価の充実
	◎安心・安全な学校づくり	・防災マニュアルに基づいた防災教育の充実 ・交通安全教育の推進 ・安全管理・点検の充実 ・安心できる教育環境の整備
		・いじめ根絶に向けた継続的な指導の実施 ・共生・共有プログラムによる人間関係の構築づくり ・生徒一人一人の適性に応じたきめ細かな指導と家庭との連携体制の充実 ・挨拶、身だしなみ、時間を守る等の自己管理能力の育成
		・身に付けさせたい力を明確にした授業実践と指導方法の改善に向けた校内研修の充実 ・指導と評価の一体化を図るための授業研究の推進 ・生徒が主体的に取り組むアクティブな授業の実践 ・家庭学習の定着に向けた自発的な学習の推進 ・ポードフォリオの推進
		・商業教育の活性化に向けた教育活動の推進 ・普通科設置に伴う着実な取組の実施 ・自己の在り方生き方を踏まえたキャリア教育の推進 ・オープンスクールや学校説明会等での効果的な広報活動の実施とPDCAによる学校活性化の推進
		・計画的な防災訓練、避難訓練の実施 ・交通安全と自転車マナーの指導の徹底 ・未然防止に向けた安全管理・確保の体制の充実 ・定期的な学校施設・設備の安全点検の実施 ・定期的な校内巡回の実施、報告・連絡・相談の推進と記録の徹底

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に取り組むアクティブな授業実践の推進と授業力向上のための校内研修の充実を図る。 次世代の教育を目指したICTなど新しい教育機器を活用した授業を実践する。 指導と評価の一本化を図るための授業研究を推進する。 学力定着を目指した家庭学習の充実とそれを基とする自発的な学習の確立に向けて取り組む。 教育課程編成委員会や学年職員と連携したクラブや年間授業計画の充実に向けて取り組む。 普通科の総合的な学習の時間『幸探究』の取組と3年間を見通した調査研究を行う。 充実した教育活動のため、授業確保に努める。公募の作成・保存や廃棄・出力など法令を遵守した体制を構築する。 入学選抜制度をより充実したものとす。 人学な教育実践に向け、他分掌・学年・各教科との連携をはかり、協力体制を構築する。 新学習指導要領や大学入試改革についての調査・研究を重ね、次期カリキュラムの検討を進める。 新学年からのe-portfolioの導入を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> わかる授業や楽しい授業を推進するため、ICT活用のルール作りや、自発的学習を目的に導入した自主学習ソフトの活用の実践を行うことができた。 普通科開設2年目を迎え、新しい教育課程や様々な教育活動を効果的かつ円滑に実践できるよう環境整備や支援を行った。 普通科の総合的な学習の時間である『幸探究』では、地域の協力を得て、フィールドワークやP.Pを用いた発表会など、生徒が主体的に取り組むことができた。 商業科の『課題研究』では、他学年に向けた研究発表会を実施し、同級生のみならず下級生にも大きな刺激を与えることができた。 時間割の作成・授業確保・年間行事等を分掌・学年・各教科と連携を密にし、協力体制を構築して実践することができた。 入学選抜制度では、県・市教委からの実施要項や手続きをマニュアル化し、職員の共通理解を図ることができた。 各職員の「スコール」に対する理解が深まり、機能的に活用することができた。 学校評価アンケートの結果からコンピュータの操作・活用に関する生徒意識が高まったことが見て取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科を中心に、より一層生徒の進路実現やニーズに向けた学習指導を展開する。普通科生徒の教育活動がより円滑に実践できるよう「授業改善」や「評価の工夫」がより一層求められる。 新学習指導要領実施に向けて、ビジネス教養科の教育課程の見直し・再検討を行う。 ICTの活用を含め、授業力向上の取組を継続する。 職員間の授業研究や教科領域研究で取組みを活かしていく。 より充実した教育活動を実施するためスコールの定着や工夫に取り組んでいく。 「進路実」「課題研究」などの課題解決型探究学習の他、自らの授業でも協働的な活動を多く取り入れ、生徒の協働性の育成に関し、多面的に取り組む必要がある。
2 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立に向け、H.Rや全校集会等で指導や朝の挨拶運動で時間遵守や服装指導に取り組む。 L.H.Rや全体会で身だしなみ指導を通して本校生徒としての心得について継続した指導を進める。 自転車通学者に交通法規の遵守や交通事故防止に向けた指導を強化していく。 いじめに関する実態調査を年2回実施し、学級担任の面談等を通して実態把握といじめ根絶に努める。 日々、生徒の個々の状況を把握し、保護者との連絡を密にし、信頼関係の構築を図る。 生徒ひとり一人が安全・安心な学校生活を送るための教育環境整備に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果で時間を守り生徒に即した生活を送っている数値が高く、全体的に落ち着いた状況である。 時間を守れない、生活習慣がきちんと確立されていない生徒に対しては継続した指導が必要である。 年間にとりより身だしなみ指導を行ってきた結果、全学年とも違反者はほぼ見られない。一部のみ残りを守れない生徒に關して、今後も継続した指導をしていきたい。 いじめに関する実態調査結果をもとに、クラス担任や教科担任との連携を図って早期に 대응できる体制を今後も続けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒心得を守った規則正しい学校生活を送るよう学級や集会等で粘り強く指導していく。 生徒個々の状況を踏まえて指導を密にし、信頼関係の構築を図っていく。 安全・安心に配慮できるように、幸祭祭等より一層の連携を図っていく。 自転車による事故防止にむけ、警察・学校・PTAが一体となった交通安全指導にあたる。 いじめ防止対応は、実態調査だけでなく観察と情報共有、早期発見に努めていく。 生徒一人一人が安全で衛生的な学校生活を送るための教育環境整備に努めていく。
3 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 新入生対策に防災教育を実施し、校内避難経路の確認や校内防災ルールの確認を行う。 年3回の防災教育を実施する。 「徒歩帰宅支援マップ」を全生徒に配布し、徒歩帰宅の道を確認する。 防災マニュアルの随時更新を図るとともに、職員対象の防災研修を実施する。 災害用備品の点検と補充等適正な管理を行う。 火災発生後、自分たちで避難所を運営するためのマニュアルを整備する。 日々の報告・連絡・相談を大切にしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時における危機意識について今後も生徒の自覚レベルを指導する必要がある。 防災マニュアルを随時点検更新を行い、職員会議でその読み合わせ研修を行った。 避難訓練において、震災時と火災時の避難方法を実践に即した形で改善を行った。 煙体験の練習や消火訓練、消防隊員の講話により、災害時の行動の在り方について知識を深めることができた。 備蓄食糧類や職員室の防災用品の点検と整理を行い、不足などを新規購入した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒心得を守り、健康で健康的な生活を送れるよう今後も粘り強く指導していく。 避難後の正確な点呼と報告の訓練は、継続して行うことで精度を高め被災につなげたい。 震災の二次災害を想定した避難方法等を、区担当者に相談し避難計画を立てる必要がある。 計画的に備蓄品を補充する。 災害発生後、自分たちで避難所を運営できる力を身につける。 避難所運営のあり方を教育の中でも知らせ、方法を体験する機会を作る。
4 保健管理	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立のため、クラス・学年・全校集会等で規則正しい生活の心得についての指導する。 身体の健康や安全に関わる問題を取り上げ、次のテーマで外部講師を招聘し、講演会を実施する。 4月 情報安全教室 7月 禁煙・アルコール教育講演会 7月 熱中症予防と心臓蘇生法講習会 7月 性教育講演会 12月 薬物・アルコール防止教育講演会 長期休業中に生徒自ら適切な健康管理ができるようと全体への指導を行う。 保健だよりを発行し、インフルエンザやノロウイルス等の予防処についての啓発指導を行う。 保健委員会によるゴミの分別や収集を徹底し校舎内外の美化に努める。 スクールカウンセラー・特別支援教育サポーター等との連携を深め、より効果的な支援を模索していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を守り生徒心得に即した生活を送っているという観点アンケート結果を評価し、今後も規則正しく校内生活を送るための指導を継続していった。 各種講演会や講習会の実施を通じ、講師による専門的観点の教育で健康・安全に対する意識を高めることができた。 薬物などの社会問題より自身に感じ、緊急時の対応についても学習し正しい知識や判断力の育成に繋げることができた。 校舎内外の美化の取り組みにより、ゴミの分別をはじめ、多岐にわたる意識を高めることができた。 支援教育に関して、スクールカウンセラーや特別支援教育サポーターとの連携を図り、適切な支援がおこなえた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒心得を守り、健康で健康的な生活を送れるよう今後も粘り強く指導していく。 支援教育については、外部講師を招聘し、年1回以上の特別支援教育校内研修を実施する。 生徒を取り巻く環境の変化の中で、生徒の心のケア等に対する支援活動を行う。 スクールカウンセラー・特別支援教育サポーター等との連携を深め、より組織的で効果的な支援を模索していく。 安全で衛生的な学校生活のため、常に学校全体の環境を整備していく。
5 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 求人票や指定校等の情報提供を行い、生徒が自主的に企業研究や学校研究に取り組めるような環境をつくる。 インターンシップを通じた、職業観・勤労観の育成を図る。 看護体験や保育体験などのサマーボランティア参加に向けた取組みの拡大を図る。 進路内容と即した進路学習会や進路講演会を実施する。 作文テストやS.P.I.講習会など、各種適性検査に向けた指導の充実をはかる。 ハローワークと連絡を密にし、面接講習会や就職希望者への全体指導を行う。 ビジネス教養科・普通科各科の特徴を活かした進路指導計画の検討を行う。 「キャリア在り方生き方ノート」の活用を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職指導では、全員内定に向けての活動を実施することができた。公務員試験については1年次より計画的に指導を行い履修者の合格者を得られた。 進路指導では、現在では多くの者が推薦による入学を希望しており、推薦入試やAO入試に対する指導に関しては学部決定で「階層」を細密に指導が実現した。しかしながら、今後後進であるよう一般受験希望者への指導をもっと展開していきたいことがこれらの課題であった。 インターンシップは、意欲のある生徒が参加して、企業の上り下りについて理解を深めることができた。 保育体験では川崎市子ども未来局との連携プログラムに参加したことで生徒への情報提供の幅が広がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入試にむけて、求められる新学力観の検討を重ね、1年次より目的意識を持った学校生活を送ることの大切さを指導、理解させていく。 仕事についての理解を深め、進路活動を展開できるように、保育士・看護師などの体験の機会を増やすなどの実践整備に努め、生徒の意欲を支援していく。 公務員試験の無料講習会や模試情報を伝え、生徒の意識を高めて行きたい。 生徒ができるだけ進路について意欲・関心をもてるような講演会を実施する。
6 特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭について、生徒会本部の計画した実施要項に基づき、体育委員会や各運動部等と協力して運営する。 商幸祭について、生徒会本部の計画した実施要項に基づき、文化委員会を中心に運営する。 合唱コンクールでは、専門的な指導援助による発声練習を計画し、クラス練習を支援する。 送別会では、生徒会本部の計画した実施要項に基づき、班委員会や各部と協力して送別会を企画運営する。 選挙管理委員会を中心に前期後期の生徒会役員選挙を各学年と協力して指導する。 高校総体開会式への参加、学校説明会資料の作成、高校野球甲子園大会の応援、生徒会活動の活性化を図る。 生徒の部活動への積極的参加を進めいくことにより、参加率を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭には、普通科クラスがクラスとして男子生徒の数が増加したが、生徒種目生導入することでその対応はなかった。 生徒の自己管理能力を育成し、運動面での活動発表の場を設定することができた。 商幸祭アでは、各学年、各クラスで団結と創意工夫を図り、幸高校を外部にアピールすることができた。また、開催中の服装の在り方に関して、執行部が主体的に検討を積み、多くの生徒の声を反映する改善につなげることができた。 合唱コンクールでは、主体的に音楽活動をしうとする意欲を向上させることができ、クラスの団結力を高め連帯感や協調性を養った。 体育祭では川崎市子ども未来局との連携プログラムに参加したことで生徒への情報提供の幅が広がった。 生徒会意見箱に寄せられた意見に対して、執行部役員が自主的に判断をし行動できるよう支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種行事の実施時期の見直しから、体育祭、合唱コンクール、商幸祭などの主要行事が前期集中するといふ、程度の高い行事がある。各行事の完成度や生徒の達成感を損なうことなく実施するために、最大限、効率的な準備・運営が求められる。 例年、生徒会本部役員は生徒会行事の企画・運営に忙し、学校生活上の諸課題に対応することができにくい状況にあるため、生徒会活動本来の目的の一つであるこうした活動とも取り組めるよう支援をしていきたい。

学校関係者の評価	今年度のまとめ ・ 次年度へ向けての取組
<ul style="list-style-type: none"> 学科改編、新指導要領、新入試というさまざまな変革に臨み、教職員の方々が多岐にわたって奔走している様子うかがえた。働き方改革が叫ばれている中、長時間労働にならないよう職員健康管理にも十分留意してほしい。 生徒がボランティア活動として、地域の活動に積極的に参加している姿は頼もしい。今後は、地域の行事の中に部活動の発表の場を設けるなど学校と一体となった地域を盛り上げていくことを望む。 文化祭をはじめとするさまざまな行事において生徒が話し話きと活動していい。地域としても今後も応援して行きたいので頑張ってもらいたい。 生徒会の役員が学校行事の運営だけでなく、制服問題や、自転車問題など生徒の代表として意見をまとめ、その要望に応えようとして取り組もうとしている姿は素晴らしい。今後も頑張ってもらいたい。 新進高校の良い点をもっと積極的にアピールする方法を模索してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 普通科が加わり、進路選択の幅がより広がった。新学習指導要領、新入試の導入を踏まえ、学習指導や進路指導のあり方について、今後更なる研究と改善が必要となる。 ICT機器の導入が進む中、生徒が主体となつて学ぶ授業の確立を目指し、効率的な学習に向けた研修・検討が急務である。 生徒が主体的・対話的に深く学ぶべき教科指導のあり方について今後も意欲的に研究を重ねていく。 普通科の総合的な学習の時間「幸探究」について、3年目の完結に向けて更に充実発展した内容にするよう研究を重ねたい。 自転車通学者の生徒の割合が多いので、講演会や安全教室などの機会を多く設け、交通安全に対する意識を高め、安全な登下校へとつなげていきたい。 いじめ防止対策の取組では、アンケートの実施や生徒の活動面、定期的な面談等を通じて現状把握に努め、根絶に向けて家庭と学校とで連携して取り組む。 体育祭や文化祭については、地域との繋がりを大切に開かれた学校に向けて改善や工夫を図っていく。 文化部の発表の場を地域行事にも広げ、地域の中の学校として貢献できることを模索していく。